

SDGs 時代の新たな地方活性化に向けて

～北陸新幹線敦賀延伸開業を踏まえた

畿北地域（近畿北部・北陸嶺南）の総合開発～

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）

副会長 中村 英夫

わが国の国土の均衡のある発展を担った「国土総合開発計画」は、2005年に「国土形成計画」へと変更され、少子高齢化の成熟社会に向けた新たな内容へと転換を遂げた。同計画は8つの地域で国と都道府県が協働して「広域地方計画」が作成される二層構造が特徴である。但し、これまでの広域地方計画では、従来型の「地方圏」との整合性もあり、新たな発展構想が必要な地域が取り残されているものも見受けられる。

本提言は、そのような地域に焦点を当てた地域圏域計画を民間から提言するものである。

その第一弾として、古都京都をはじめとした人口集積地の近くにありながら、地域振興策の対象としてこれまであまり注目を受けなかった「畿北」（福井県嶺南、京都北部中山間地、滋賀県西部 を合わせた地域を呼ぶ）という新たな地域圏域を設け、検討の対象とした。日本の原風景ともいえる美しい景観をもつこの地域の特性を最大限に活かすため、SDGs に配慮しながら新たな地域圏域計画を構想したものである。私たちの構想が同じような状況に置かれている全国の地域圏のモデルになれば幸いである。

提言プロジェクト

【観光】

- ①サバ街道サイクリングを基軸とした畿北地域の再生・活性化
- ②敦賀観光活性化
- ③若狭湾周辺の観光魅力アッププロジェクト

【地域資源最大化】

- ④小浜線交通サービス向上による利用促進策
- ⑤脱炭素をはじめとする SDG s の推進

【総合林産業】

- ⑥京都北山林業と地域の再生